

平成29年度対日理解促進交流プログラム
JENESYS2017日ASEAN学生会議
日本代表大学生の参加者募集要項

平成29年7月14日

一般財団法人 日本国際協力センター (JICE)

平成29年9月19日(火)から26日(火)まで、東京及び東北地方/九州地方において「日ASEAN学生会議」が開催される予定であり、これに参加する日本人大学生(12名)を募集します。

「日ASEAN学生会議」は、日本政府の推進する対日理解促進交流プログラムJENESYS2017*の一環として実施されるものです。ASEAN加盟10か国から11名ずつ各国代表大学生を集め、日本人大学生を交え、「平和と安定のために日本とASEAN諸国の青年ができること」を共通のテーマとしたプログラムです。本プログラムを通して、日ASEANの将来を担う若者同士の活発な交流、社会貢献の意識の醸成、相互理解と友好促進が期待されます。

参加を希望される方は、以下記載のプログラム概要及び募集要領を確認の上、参加申込みを行ってください。皆様からのたくさんの御応募をお待ちしております。



* 対日理解促進交流プログラム JENESYS2017

日本とアジア大洋州の各国・地域との間で、対外発信力を有し将来を担う人材を招へい・派遣し、政治、経済、社会、文化、歴史、外交政策等に関する対日理解の促進を図るとともに、親日派・知日派を発掘し、日本の外交姿勢や魅力等について被招へい者・被派遣者自ら積極的に発信してもらうことで対外発信を強化し、我が国の外交基盤を拡充することを目的としています。

☆昨年度事業 (JENESYS2016) の様子 <http://sv2.jice.org/exchange/>



I プログラム概要

1. 日 ASEAN 学生会議の概要

日 ASEAN 学生会議は、ASEAN 加盟 10 か国から将来リーダーとしての活躍が期待される大学生を招へいし、日本の大学生を交えて、「平和と安定のために日本と ASEAN 諸国の青年ができること」を共通のテーマに、日本と ASEAN 諸国に共通する諸課題から「自然災害」、「経済開発」、「環境問題」、「地域における社会活動」を取り上げ、テーマ別に都内及び地方における関連講義の聴講、関連施設の視察、日 ASEAN 学生会議（ワークショップ、成果報告会）を行います。本プログラムでは、日本と ASEAN10 か国の参加者自らが積極的に取り組み、ASEAN 加盟国及び日本社会にどのように貢献できるかを考え、終了時には、成果として「行動宣言」を作成し外務省及びインドネシア（ジャカルタ）にある ASEAN 事務局へ提出します。また、日本と ASEAN10 か国の参加者は地方訪問時に伝統文化等の視察・体験を行い、日本の文化、伝統、生活様式等の理解を深める機会を持ちます。

2. 日 ASEAN 学生会議の目的

日 ASEAN 学生会議を通じて、日本及び ASEAN 加盟国の青年が、現在の課題を共有し、解決に向けて意見交換を行うことで、自身の能力・可能性に気づき、社会貢献の意識を醸成すること、日 ASEAN の相互理解と友好促進することを目的としています。また、日本と ASEAN10 か国の参加者が本プログラムの経験で学んだ事柄や日本事情について様々な機会を通じて発信することを期待しています。

3. 参加国及び参加人数

- 日本国：日本国内で募集した大学生 12 名
- ASEAN 10 か国：ASEAN 加盟 10 か国から各 11 名ずつ 計 110 名の大学生
(各国 1 名の引率者を含め、合計 120 名)

4. プログラム日程 (案)

[別紙①](#)を参照ください。詳細調整中の為、変更の可能性があります。

5. 経費

プログラム参加に必要な費用は以下のとおりです。

参加者自己負担経費	主催側負担経費
※右記主催側負担経費以外に発生する経費は自己負担となります。	・プログラム中の宿泊費・交通費・食費・施設入場料
例) ・自宅から都内集合/解散場所までの往復交通費 ・プログラム前後(集合前と解散後)の宿泊費・食費 ・プログラム時間外の個人的な飲食費 等	・プログラム中の国内旅行保険加入費

※本事業参加決定後に、自己都合によりキャンセルをした場合、キャンセルにより発生する経費は参加者自己負担となりますのでご注意ください。

II 募集要領

1. 応募資格

- (1) 年齢：平成29年4月1日時点で18歳以上29歳以下の大学生
※未成年者の参加には保護者の同意が必要です。
- (2) 心身の状況：心身共に健康で協調性に富み、本プログラムに従って規律ある団体行動ができること、及び積極的にプログラムに参加できること
- (3) 知識及び経験：日ASEAN協力に関心を有すること
- (4) 語学力：英語による議論ができること(目安：TOEIC600点以上)
- (5) プログラム全日程への参加：9月19日(火)～25日(月)6泊7日の全日程に参加できること ※途中参加、途中離団不可
- (6) プログラム中及び事前事後課題：6. その他記載の各課題を実施・提出できること
- (7) その他：日本国籍、または日本永住権を有すること
7. 「本プログラム参加における責任範囲」に同意すること
個人情報利用同意書(別紙)に同意すること

2. 募集人員

12名

3. 共通言語(プログラム実施言語)

英語

※プログラム中の指示、講義、本会議(ディスカッション、成果報告会)、コミュニケーション等は原則全て英語で行います。

4. 応募方法

- (1) 提出書類：参加申込書(別紙②) 1部
- (2) 提出方法：一般財団法人日本国際協力センター(JICE)へ郵送または持参
- (3) 送付先/問合せ先：
 - 一般財団法人日本国際協力センター (JICE) 国際交流部青少年交流課
 - JENESYS2017 日 ASEAN 学生会議担当宛
 - 〒163-0716 東京都新宿区西新宿二丁目 7 番 1 号小田急第一生命ビル 15 階
 - E-mail: jenesys2017-sc@jice.org
 - TEL : 03-6838-2730
- (4) 締切り：平成29年8月15日(火) 17:00必着
- (5) その他：提出書類は返却しません。

5. 選考及び選考結果通知

申込みが多数に上る場合には、当財団にて厳正な選考を行います。

- ・選考の結果は、平成29年8月21日(月)までに電子メールで通知します。
- ・4つのグループ(A自然災害、B経済開発、C環境問題、D地域における社会活動)のうちどのグループに参加頂くかは当財団が決定し、選考結果と合わせて通知します。(決定後のグループ変更はできません。)
- ・選考結果に関するお問い合わせには応じられませんので、予めご了承ください。

6. 事前・プログラム中・事後課題 (各国共通、事前事後は原則各自実施)

(1) 事前課題 (プログラム開始前)

参加決定グループのテーマ(A自然災害、B経済開発、C環境問題、D地域における社会活動のうち1つ)において；

- ① 自国(日本)が抱える問題等の説明(プレゼン資料)・議論ができるよう準備
- ② 日ASEAN関係の現状と課題についての事前学習

(2) プログラム中の課題

- ① 日ASEAN学生会議のワークショップ時に、上記(1)①の説明(プレゼンテーション)の実施
- ② 「行動宣言」の作成と報告会での発表
- ③ ホスト国の参加者として各国の学生と活発な交流を行うとともに、将来を担う若者同士の関係構築及びその発展のため連絡先を交換する

(3) 事後活動 (プログラム終了後)

- ① 上記(2)③で作成した「行動宣言」の実施及び実施報告書の提出

- ② 事後アンケートの提出（感想文含む）
- ③ ソーシャルメディア等によるプログラム体験・日本の情報発信（プログラム中の実施も可）

※上記以外にも追加になる可能性があります。詳細は参加決定後別途通知いたします。

7. 本プログラム参加における責任範囲

- (1) 日本国内の状況やASEAN各国の事情等やむを得ない事由により、プログラムの中
止・延期・旅程や宿泊先等の変更が発生する場合があります。
- (2) 実施団体（JICE）は、プログラム中、参加者の健康状態や行動等が不適切と判断
した場合、プログラム参加を取り消し、離団を命じる場合があります。参加取り消
しによって生じる費用は、当該者に請求する場合があります。
- (3) 本プログラム参加申し込みにあたり、所属大学に承諾を得たうえで申請書を提出
ください。また、参加者が大学の授業を休む場合の扱いや単位認定については、大
学側の判断にてお願いいたします。
- (4) 本プログラム参加正式決定後に、所属大学の本プログラムへの参加承諾書を提出
いただきます。

以上

■一般財団法人日本国際協力センター（JICE）とは■

一般財団法人日本国際協力センター（JICE/ジャイス）は、1977年の設立以来、主に開発途上国を対象とした国際協力事業に関する業務を行ってまいりました。現在は開発途上国のみならず、我が国と諸外国との互惠関係の強化に資する事業を通じて、国際社会の発展に寄与することを目的とした事業を行っています。

主な事業は、外務省をはじめとする中央官庁、独立行政法人国際協力機構（JICA）、大学、地方自治体、公益法人、企業、国際機関および外国政府などの国際研修運営、国際交流、留学生受入支援、通訳派遣、日本語研修、コンベンション・セミナー、プロジェクト支援、開発教育支援事業です。

JICEでは289名の事務スタッフに加え、31言語に対応した1,086名の専門スタッフが、これまでの経験・知見を十分に活かして、各事業の案件形成、調査、研究、実施及び評価を行っています。JICEは「知をつなぐ。世界をつなぐ。未来をつなぐ。」をキャッチフレーズに、心と言葉で「日本の技術・知識・経験」をつなぎ、世界の人々と、共に学びあい、理解を深めながら、各国の将来を担う人材育成に取り組んでいます。

